

【解禁日時】 平成 31 年 3 月 11 日午前 0 時以降

2019年3月11日のメッセージ

「人生を変えるほどの出来事だった。先生の的確な判断がなければ、
自分たちはこうして成人を迎えられなかったかもしれない。」

(浪江町立請戸小学校卒業の新成人 横山和佳奈さん)

「東日本大震災で大きな被害があった福島に勇気を届けることを目指し、
みんなでプレーしている。いつも支えてくれる福島に恩返しをしたい。」

(第97回全国高校サッカー選手権大会3位 私立尚志高校 染野唯月さん)

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から8年。

今、福島では、時刻(とき)が止まっていた校舎に子どもたちの歓声が戻り、
多くの皆さんが希望を託した植樹祭の苗木はすくすくと成長しています。
県内各地には、美しく雄大な自然や豊かな食を楽しむために、
国内外から大勢の方が観光に訪れています。

また、スポーツや文化をはじめとしたさまざまな分野で、
福島の若者がめざましい活躍を遂げています。

復興が着実に進む今の福島があるのは、県民の皆さんのひたむきな努力と、
福島を応援いただいている世界中の皆様の温かい励ましの賜物であり、心から感謝を申し上げます。

一方で、いまだ避難指示が続く地域もあり、
最も多くの方が避難されていた時期の4分の1にまで減少したものの、
現在も4万人を超える県民の皆さんが避難生活を続けています。

根深く残る風評と、廃炉への長い道のりの中でも進んでいく記憶の風化…。
この相反する状況を伝えていく難しさ。時間の経過とともに多様化・複雑化する新たな課題。

私たちは、それぞれの状況を認め合い、協力し、支え合いながら、更なるチャレンジを続け、
これからも多くの壁を乗り越えていかなければなりません。

「僕は、福島の復興や発展の傍観者ではなく、関係者になりたいと思った。」

(東京から教育旅行に参加した高校生 石井敬直さん)

去年は、全国各地で災害が頻発しました。

私たちはこれまで、国内外からたくさんの応援や励ましをいただきました。
これからは、私たちが少しずつ恩返しをする番です。

絆や御縁のありがたさを知っている私たちだからこそ、
被害にあわれた地域に寄り添い、力になりたいと思っています。

「こんな体験をしているのは世界で福島だけ。立ち上がった福島を見せる。

そういう力強さを持った県になりましょう。」 (俳優 西田敏行さん)

「かつかつと 馬蹄が時間(とき)を ノックする

騎馬武者の 勇姿笑顔で 子らと観る」(福島県立郡山支援学校高等部 木暮真瑚さん、母 優子さん)

まもなく、新しい時代の幕開けを迎えます。

避難指示が出されている地域では途切れていた鉄道がつながり、まちなかに人々の流れが戻ります。
いよいよ本格始動する福島ロボットテストフィールドを活用して、
困難な環境の中で活躍できるドローンなど、福島だからこそそのロボット開発が進められていきます。

また、起業精神にあふれる若者が集う場づくりや、
高校生ライターが福島の農家の思いと食材の素晴らしさを伝える活動など、
地域の課題に正面から向き合う動きが広がっていきます。

復興に向けた私たちの挑戦は、次の時代も続きます。

福島県を築いてこられた先人の方々、
福島復興に関わってこられた皆様への感謝と福島プライドを胸に刻み、
人と人、心と心のつながりを大事にしながら、次の世代を担う子どもたちを守り育み、
「生まれて良かった、住んで良かった、来て良かった」と思える
希望に満ちた豊かな福島の未来を切り拓いてまいります。

平成31年3月11日

福島県知事 内堀 雅雄